

国際共修授業を 言語コミュニケーション の観点から考える

日本語を媒介語とする留学生と日本人学生がともに学ぶ国際共修授業の中で、学生主体の PBL (Project Based Learning) 活動を支える言語の役割は大きいと考えられます。しかし、留学生に対して N1 取得などの日本語レベルの基準設定を設けて管理するだけが解決策ではないといえるでしょう。小グループによる留学生と日本人学生の実際の会話を観察してみると、必ずしも留学生の日本語力不足だけが原因とはいえない、さまざまなコミュニケーション上のトラブルが見受けられます。留学生にとってみれば、外国語である日本語で発話を組み立てて母語話者に伝え、ときには議論し説得しなければなりません。コミュニケーション上のトラブルは、日本人学生のコミュニケーションの仕方に原因がある場合もあります。とりわけ、コロナ禍の中で、オンラインによる学生同士のグループワークが増え、その場をファシリテートする教員側としては、コミュニケーション上のトラブルに対する自己修復の機能がさらに働きにくくなったと感じることもあります。

本シンポジウムでは、このような国際共修授業における留学生と日本人学生、または留学生同士、日本人学生同士のコミュニケーションブレイクダウンに焦点を当て、実際にどんなトラブルが起きているのか、それを教員側はどのように捉えて対処したらよいか、そういった状況を未然に防ぐために、授業計画の段階からどういった配慮が必要かなどについて、より実践的な側面から皆さんと一緒に考えたいと思います。

2022 年 2 月 5 日 (土) 13:00~15:30 オンライン(Zoom)開催

◆講師：徳井厚子氏 (信州大学)

◆話題提供・実践報告：小玉博昭氏 (香港大学)

参加申込先：<https://forms.gle/bo7mpSXtyvwwKhMM6>

申込用 QR コード ↓

※定員は設けていませんが、参加方法提供のため、参加を希望される方は

2月2日(水)までにお申込み下さい。

※申し込みをされた方には、前日までに、参加方法をメールでご連絡します。



問い合わせ先：北海道大学高等教育推進機構 青木麻衣子 maoki [at] oia.hokudai.ac.jp

※メール送信の際はアドレスの [at] を@に置き換えてください。